

第 73 回運輸の日

日 時 2016 年 05 月 10 日 (火) 10:00~15:00
 場 所 東神トラックステーション
 行 動 者 原 健一郎 (SSX 労働組合京浜支部)
 鈴木 政男 (SBS フレイトサービス労働組合)
 浅井 義昭 (丸全昭和運輸労働組合)
 望月 博巳 (県連)
 アンケート 54 集約

場 所	担 当 者	10:00~12:00	13:00~14:30	計
右	浅井 義昭	10	6	16
中	鈴木 政男	9	6	15
左	原 健一郎	4	13	17
前	望月 博巳	4	2	6
		27	27	54



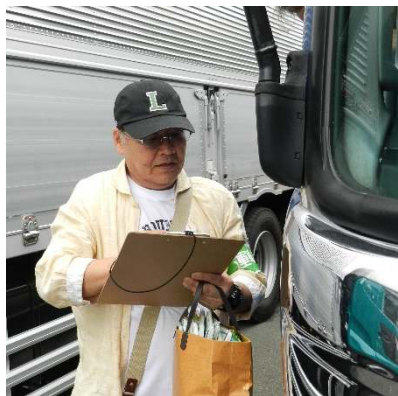
いつもと違い駐車スペースが空いている。連休後ということで、荷物が動いていないのか？またその逆なのか？

昨日の雨もあがり、晴天の中ベテランの行動者が一人ひとりに声をかけアンケート調査を行った。今までの調査内容から若干変更された新しいアンケート内容となっている。今回の調査結果をどのように政策化していくかがこれからの課題となる。そのデータを集約する大切な行動だ。県連では、トラックステーションや共同配送センターなどのトラック協会が関わる場所での、簡単な点呼ができないものか？ドライバーの安全をどのように守るか？通常のアンケートに加え『点呼』について聞き取りを行った。

行動者から



原 : 何回か拡大行動をしていますが、今までで一番空きスペースが目立った状態でした。入って来るトラックはそれなりにありますが、中々協力していただけないため、今までの中で一番成果が上がらなく最悪でした。今回は近県の方が多くあったのですが、点呼での回答に疑問点が多く『点呼とは・・・』のチラシの配布をした方が良いと思われます。大きな事故が起きてから『点呼』『36 協定』などが表に出てきますが、事故が起きてからでは遅いと思いますので、適正化のチェック機能をフルに使えるようにすべきと感じました。



鈴木：今日は担当の場所が良かったのか、多くのドライバーの方に
応えてもらうことができました。今回のアンケートの中で『点呼は
ない』という回答が多かったのは残念でしたが、あるドライバーさ
んは「出発前に行って休息に入る時に『待機』のボタンを押せば会
社から電話がかかって来る仕組みになっている」と話してくれま
した。



浅井：今回のアンケート調査内容に加えて『点呼』について掘り下
げて聞いてみました。始業終業時の点呼を電話連絡で行う業務連
絡と混合しているドライバーが多く見られました。保有台数が100
台以上の会社では点呼要員を配置している所もあるようですが、
規模が小さくなればなるほど点呼要員の確保は難しいのでは中と
思いました。

望月：今回のアンケートでも、労働時間管理がされていない企業が多いことが全く改善されてい
ない状況。これだけ大きな事故が起きれば、労働時間や健康管理などが問題になっているにも
ある。一方、労働者側も1行程幾らといった環境に慣れ、労働時間など頭がないのが実情であ
る。労働者の意識改革が急務だと感じました。また、点呼については、全く行っていないよりは
電話にて行われる方が良いと思うが、基本は対面点呼でしっかり運転者の体調などを目視す
ることが大切。